

景気動向調査

「(山形・秋田)県内企業の景気動向調査」(概要)

1 調査の目的

山形・秋田県内に本社を置く法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しについて調査を行い、景気の動向を把握することを目的とする。

2 調査の方法

すべての質問事項についてDI (Diffusion Index) 値を求める。たとえば、各社の業況を示す「自社の業況DI値」の算出方法は「自社の業況DI値」= (「良い」と回答した企業の割合) - (「悪い」と回答した企業の割合)

3 調査期間

平成25年11月1日(金)～14日(木)

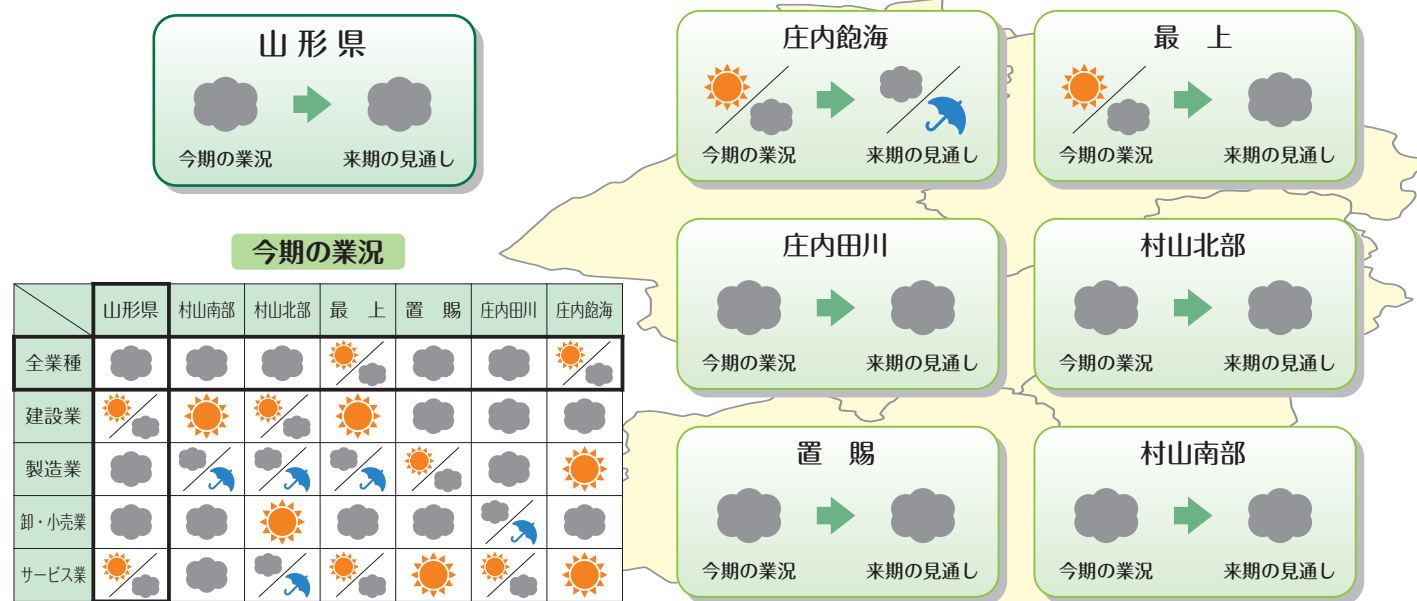
4 サンプル概要

アンケート対象企業 山形738社、秋田639社
有効回答数 山形463社、秋田415社
回答率 山形62.7%、秋田64.9%

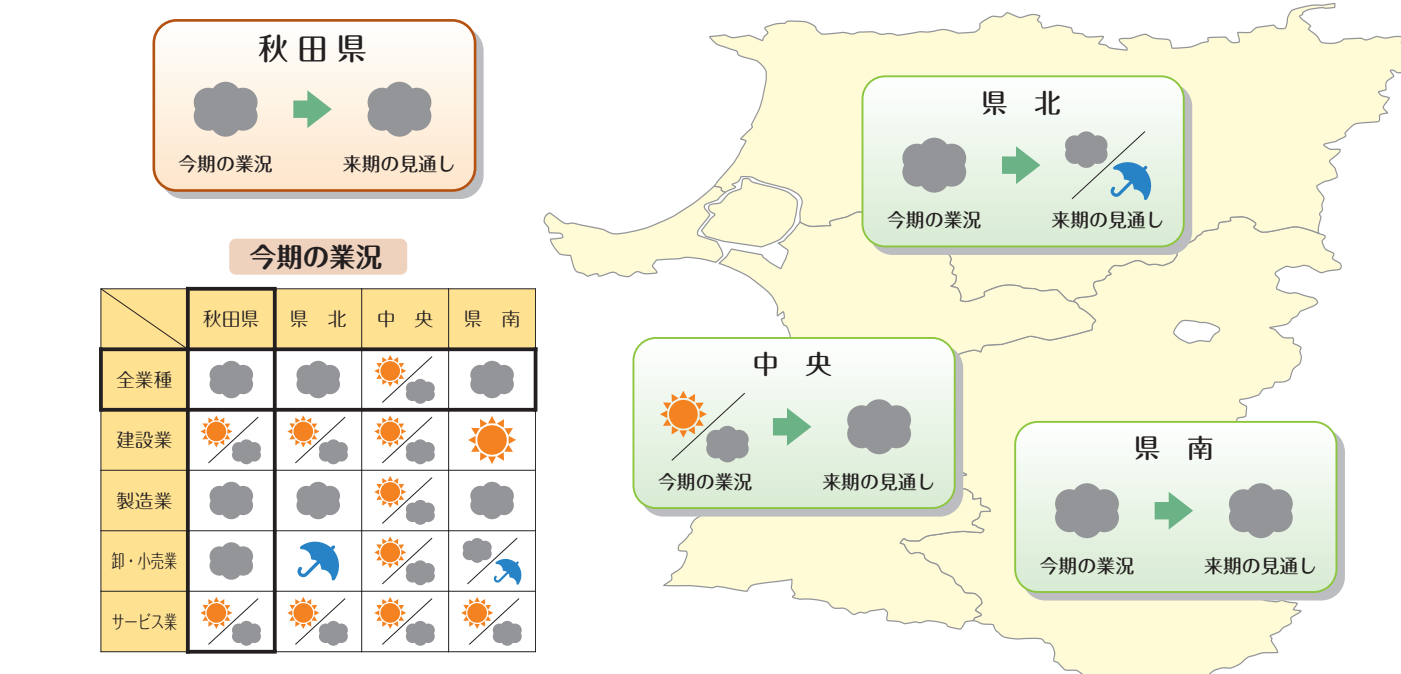
特に好調 DI≥30	好調 30>DI≥10	まあまあ 10>DI≥▲10	不振 ▲10>DI≥▲30	きわめて不振 ▲30>DI

景気天気図

第37回「山形県内企業の景気動向調査」



第10回「秋田県内企業の景気動向調査」

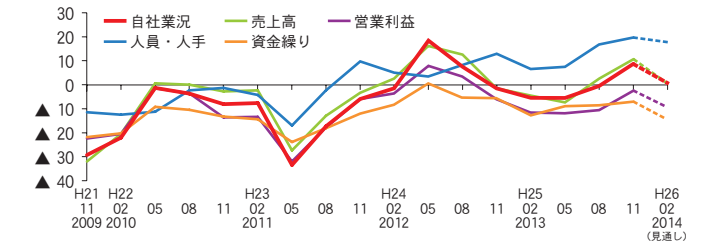


▶ 自社業況の動向

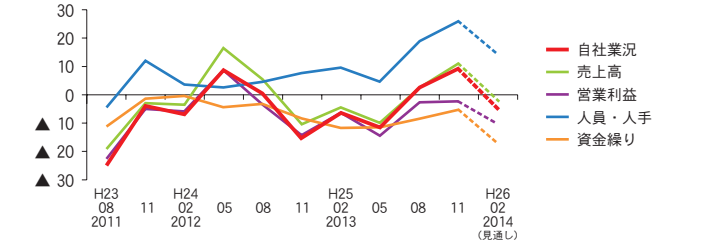
山形県の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」でみると、8.4(前回調査比8.8ポイント上昇)と5期ぶりにプラスに転じ、**県内景気は持ち直しの動きがみられる**。先行き見通しは0.3(今回調査比8.1ポイント下落)と、DI値はプラスを維持するものの、悪化の見込みとなり、燃料費高騰や電気料金値上げなどの経費増加を懸念しているものと考えられる。

秋田県の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」でみると、9.1(前回調査比6.8ポイント上昇)と引き続きプラスを維持して2期連続の改善となり、**県内景気は持ち直しの動きが続いている**。先行き見通しは▲5.3(今回調査比▲14.4ポイント下落)となり、DI値がマイナスに転じる見通し。原料・燃料費高騰や電気料金値上げを映じた収益悪化懸念がうかがえる。

図表1 山形「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表2 秋田「自社業況DI値(前年同期比)」の推移

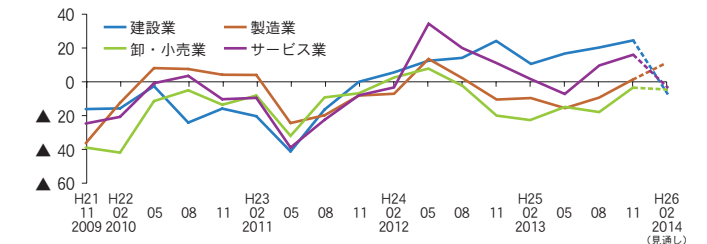


▶ 業種別の動向

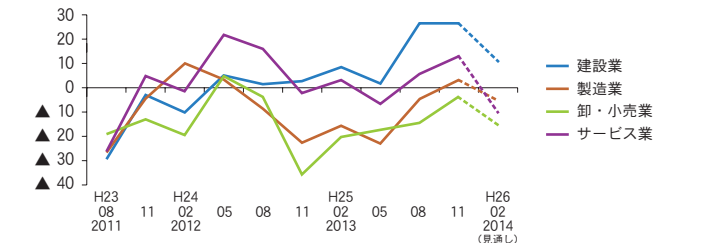
山形県の業況を業種別にみると、すべての業種で回復となり、製造業ではDI値が5期ぶりにプラスに転じた。また、製造業と卸・小売業の回復幅が大きい。先行き見通しは、製造業でDI値のプラス幅が拡大する一方、その他の3業種で悪化の見込みとなり、特に建設業で大きく悪化が見込まれている。

秋田県の業況を業種別にみると、製造業、サービス業、卸・小売業で改善となった。製造業で6期ぶり、サービス業で2期ぶりにDI値がプラスに転じた。先行き見通しは、すべての業種で悪化が見込まれており、中でもサービス業の悪化幅が大きい。サービス業と製造業ではDI値がマイナスに転じる見込み。また、建設業を中心に人手不足が深刻化している。

図表3 山形・業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表4 秋田・業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移

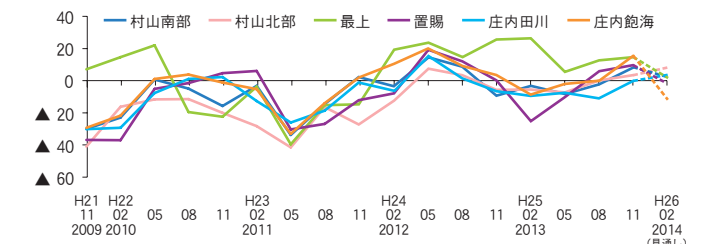


▶ 地域別の動向

山形県の業況を地域別にみると、村山南部が8.2(前回調査比10.6ポイント上昇)、村山北部が3.2(同3.2ポイント上昇)、最上が14.9(同2.6ポイント上昇)、置賜が9.8(同3.9ポイント上昇)、庄内田川が0.0(同11.1ポイント上昇)、庄内飽海が15.8(同15.8ポイント上昇)とすべての地域で回復し、**村山南部、村山北部、庄内飽海の3地域でDI値がプラスに転じた**。先行き見通しは、村山南部、最上、置賜、庄内飽海で悪化の見込みとなり、置賜と庄内飽海ではDI値がマイナスに転じる見通し。

秋田県の業況を地域別にみると、中央は18.0(前回調査比15.0ポイント上昇)と2期連続で改善したものの、県北では▲2.7(同4.0ポイント下落)、県南では▲0.9(同2.5ポイント下落)とともに悪化となり、**小幅ながらDI値がマイナスに転じた**。先行き見通しはすべての地域で悪化となり、総じて各地域とも慎重な見通しを示している。

図表5 山形・地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表6 秋田・地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移

